

【検討趣旨】

鳥取県立博物館は開館後40年以上経過し、建物・設備の老朽化、収蔵庫の狭隘化、駐車場の不足など深刻な問題を抱え、抜本的な対応を考へるべき時期に来ており、最新の全国動向や社会経済情勢を踏まえ、今後の在り方についてゼロベースで議論し、ソフト、ハード両面にわたる総合的な検討を行った。

【基本的な方向性】

- ① 現施設は国の史跡指定地内にあり、大規模な増改築や敷地の拡張などはできない。⇒ 新たな施設を整備すべき。
- ② 現施設は、改修を行えば今後も博物館等として使い続けることができる。建築物としても優れている。
- ③ 現施設は、鳥取市中心部で、緑の多い鳥取城跡地内という恵まれた立地にある。
- ④ 新たな施設を整備する場合でも、そこに移転するのは一部に止め、それ以外は現施設に残すべき。

3分野のいずれかのための施設を新たに整備し、現施設を残りの分野のための施設に改修する場合における、それぞれの施設の在り方やメリット、デメリット等について検討

施設整備の方策

区分	①美術分野のための新たな施設を整備 (現在の施設は自然分野と歴史・民俗分野のための施設に改修)	②自然分野のための新たな施設を整備 (現在の施設は美術分野と歴史・民俗分野のための施設に改修)	③歴史・民俗分野のための新たな施設を整備 (現在の施設は美術分野と自然分野のための施設に改修)
新施設	<ul style="list-style-type: none"> 展示・保管資料を適切な環境下で管理 主要資料を常設展示 大型資料を展示 可動壁等を備付け 作品制作室の設置 建物設備の老朽化対応 搬出入口等の大型化 燻蒸庫を整備 館内設備の耐震対策 十分な規模の駐車場 バリアフリーとシンプルな基本動線 県民ギャラリーとしての利用 	<ul style="list-style-type: none"> 展示・保管資料を適切な環境下で管理 大型資料を展示 体験型展示等に対応 体験学習室の設置 図書・情報コーナーの設置 建物設備の老朽化対応 バリアフリーとシンプルな基本動線 	<ul style="list-style-type: none"> 体験型展示等に対応 体験学習室の設置 図書・情報コーナーの設置 建物設備の老朽化対応 バリアフリーとシンプルな基本動線
施設規模	<ul style="list-style-type: none"> 他県の例を見ると、在り方によっては広い空間が必要となり、施設規模が大きくなる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 他県には大型のものも多い。 最近の他県施設は、歴史分野と併せても当館現施設(延床面積約1万㎡)と同程度。 	<ul style="list-style-type: none"> 大型施設は、全国的なアピール力を有する歴史遺産等がある地域の施設に限られる。 他県には当館現施設より小型のものも多い。
基本的な在り方	<p>多くの人が訪れやすい中心市街地等に設置して、本県ゆかりの作家の作品や、全国的・世界的な美術の名品に、県民が日常的に親しめるようにする施設(美術を特別なものと考えず、日常的に楽しめるようにする施設)とする場合</p> <p>(留意点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 広い敷地確保は容易でないが、広い公共空地もある。 周辺の都市施設等との連携により、地域活性化に貢献。 	<p>多くの人に日常的に利用して貰えるようにすることを第一に考え、周辺に多くの人が暮らし、交通も便利な中心市街地等に設置し、利用者に素晴らしい自然が残されている所を紹介して、人々をそこへと誘導する施設とする場合</p> <p>(留意点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 広い敷地確保は容易でないが、広い公共空地もある。 周辺の都市施設等との連携により、地域活性化に貢献。 多くの人が訪れる場所で本県の自然等に関する情報を発信し、人々をその自然がある場所へ誘導。 	<p>多くの人が利用しやすく、歴史的な旧跡等が今も残る市街地に設置し、本県の歴史や生活文化を象徴する建物や場所を紹介し、人々を現地へ誘うとともに、周辺環境と連動して来館者に本県の歴史等を体感して貰う施設とする場合</p> <p>(留意点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 古代や中世を中心とするなら、市街地への設置は困難なので、離れた所にある遺跡等へ人々を誘導するのに力を入れるべき。 広い敷地確保は容易でないが、広い公共空地もある。 周辺の都市施設等との連携により、地域活性化に貢献。
利点	<ul style="list-style-type: none"> 両分野は密接に関わっており、一館で両分野を取り扱う例は全国的にも多い。 両分野の共用であれば、現施設の空間利用は、他の場合より余裕あるものとなり、課題対応に必要なスペースを確保できる可能性が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 両分野は、保存・活用する資料等に重なる部分もあり、一つの施設で対応することに違和感はない。 	<ul style="list-style-type: none"> 両分野の複合施設は、全国でも殆ど見受けられないが、そうした希少性が、逆に当該施設の個性となる可能性もある。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 歴史分野は近世史が中心だが、美術分野は近現代作品も重視しており、連携には工夫も必要。 歴史分野の比重が増大し、近隣施設との重複顕在化。 他県的美術館には、規模的に当館現施設を大きく上回る施設が多いので、両分野が入居した場合、手狭で両方とも課題に十分対応できなくなる恐れがある。 		

【今後の進め方】

- 1 県民との対話と連携を図ること。 2 可能な方策は、速やかに実施すること。

現状点検

A 経営責任	<ul style="list-style-type: none"> 館の使命が具体性に欠けている。 経営目標、経営計画等を定めていない。 外部評価を実施していない。 など
B 利用者の関係	<ul style="list-style-type: none"> 市民が館の事業に参画する機会を恒常的、制度的には設けていない。 地域連携のための方針を策定していない。 など
C 展示	<ul style="list-style-type: none"> 常設展示の全てを定期的には更新していない。 職員やボランティアによる解説等を定期的には実施していない。 など
D 教育普及	<ul style="list-style-type: none"> 教育普及活動計画を作成していない。 学芸員の仕事体験講座等の館の利用を支援する活動を実施していない。 など
F 調査研究	<ul style="list-style-type: none"> 調査研究方針・計画を策定していない。 博物館学等に関する専門的な調査研究は行っていない。 など
G クレジット・コレクション	<ul style="list-style-type: none"> 美術以外の分野では、資料収集方針を策定していない。 収集、収蔵資料のうち7割以上を台帳等に登録していない。 など
H ニティアー	<ul style="list-style-type: none"> 施設の維持・改善の中長期計画を策定していない。 主要設備について耐震対策ができていない。 など
利用者の関係・地域	<ul style="list-style-type: none"> 地域の大学等と連携した取組を組織的・恒常的には行っていない。 理工系、ポップカルチャーの分野では日常的・継続的な取組を行っていない。 など
展示	<ul style="list-style-type: none"> 美術分野では、主要な収蔵資料を常時又は定期的に展示できていない。 幼児、障がい者、高齢者等のニーズに対応した取組を積極的には実施できていない。
教育普及	<ul style="list-style-type: none"> 県外作家の県内滞在制作を支援し、県民が交流する機会を設ける取組を実施していない。 作品制作、科学実験等が行える場所が確保されていない。 など
一般職員・一学芸員	<ul style="list-style-type: none"> 職員の成長を促し、資質の向上を図れる取組を制度的又は継続的に実施していない。 作家の周辺資料を研究する専門職員がおらず、資料の利用促進ができていない。 など
調査研究	<ul style="list-style-type: none"> 一部資料は離れた所で保管するなど、標本の搬入、処理、保存、研究といった作業が安全かつ効率的に行えるようになっていない。
施設・アーカイブ	<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化対応を計画的に実施しているとは言えない。 来館者用駐車場を必要数用意できていない。 大型化する資料等に対応できる搬入スペース等が整備されていない。 など

課題

1 県民との連携・地域への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ① 県民参画・ボランティア活用の促進 ② 幼児等の利用促進 ③ 県民活動の拠点化 ④ 大学・市町村との連携 ⑤ 県民ニーズへの対応
2 多様なニーズに対応した基本業務の展開	<p>(1) 収集保管</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 台帳・目録等の整備 ② 資料の適切管理 <p>(2) 展示</p> <ul style="list-style-type: none"> 展示更新、空間確保、多様な展示方法への対応 <p>(3) 教育普及</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流取組の推進とそのための施設整備 <p>(4) 調査研究</p> <ul style="list-style-type: none"> 収蔵庫等の適切配置 <p>(5) その他(総合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 老朽化への対応 ② 通路等の大型化、耐震・防虫対策 ③ 十分な駐車場の確保 ④ バリアフリー化、動線のシンプル化
3 戦略的な運営体制の整備	<p>(1) 方向性の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 館の使命、経営目標設定 ② 方針・計画策定 ③ 自己評価・外部評価 ④ 倫理規程等の整備 <p>(2) 職員体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 必要な職員の配置 ② 人事交流の促進 ③ 緊急時対応体制

対応策

1 県民連携・地域貢献の方策	<ul style="list-style-type: none"> ① 県民活動協力担当者の指定 ② 県民連携講座等の拡大 ③ 県民主権講座等への参画 ④ 集客イベントの開催 ⑤ まちづくりとの連携 ⑥ 実行委員会方式による企画展開催 ⑦ 展示解説の定期実施 ⑧ 幼児・障がい者・高齢者対象講座等の開催 ⑨ 県民活動への協力強化 ⑩ 遠隔地出張事業の拡充 ⑪ 遠隔地他館事業への支援 ⑫ 地元大学等との共同研究 ⑬ 地元大学等との連携協定 ⑭ 県内他館との調整・連携 ⑮ 科学技術、ポップカルチャーへの対応 ⑯ 県民ギャラリーとしての利用
2 多様なニーズに対応した基本業務の展開方策	<p>(1) 施設整備を伴わない方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 資料台帳の整備 ② 常設展示の計画的更新 ③ 新種講座等の実施 ④ 博物館学の調査研究の強化 <p>(2) 施設整備の方策</p>
3 戦略的な運営体制の整備方策	<p>(1) 方向性を明確化するための個別方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 使命の設定 ② 経営目標の設定 ③ 業務プランの作成 ④ 実績評価の実施 ⑤ 規程集のデータベース化 ⑥ 倫理規程等の整備 <p>(2) 職員体制を充実するための個別方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 総務部門の強化 ② 専門業務の体制強化 ③ 他館との交流促進 ④ 緊急時対応体制の整備 <p>(3) 包括的な対応策</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 地方独立行政法人による運営 <ul style="list-style-type: none"> ・ 効率化が行き過ぎないようにする。 ・ 独立のメリットが期待できる規模とする。 ⇒ 市町村と共同で県博と市町村の博物館、美術館、歴史民俗資料館等を一括して運営する地方独法を設置することも検討すべき。 ② 指定管理者による運営 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 指定管理により博物館業務の円滑適正な運営に支障が生じないよう指定管理者の条件、これに委ねる業務範囲、行政の関わり方を十分検討すべき。

